

---

# 彼の気持ち

河清 しづく

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

彼の気持ち

### 【コード】

N6576D

### 【作者名】

河清 しづく

### 【あらすじ】

わがままな男の勝手なつばやきです。

友達連中が、皆、彼女というものを作っていたから、自分も作ってみた。

優しくしてやれば、うれしそうに笑う。

気持ちよくしてやれば、その倍も気持ちよくしてくれる。

当たり前の人間関係以上に、彼女ってやつは、いいものだと思うた。

だが。

1つだけ許せないことがあった。

奴は、俺の一人の時間というやつを、奪おうとしたのだ。

一人で過ごす時間を、全てなくそうとしたのだ。

一日の大半を一緒にいるのは、全然構わない。

彼女ってやつは、そういうものらしいから。

それでも、誰にでもあるだろう、一人でいたい時ってものが。

例えば、一人で出かけたときに、ついてこようとする。

一人で静かに本でも読みたいときに、側にいようとする。

ゆっくり一人で寝たいときに、隣にいようとする。

信じられない。

お前は何様だと、何のつもりだと、怒鳴りつけたかった。

一人になりたいときに、一人になれない。

これは、彼女がいる代償なのか。

欲しくて作った彼女ではない。

そう思い始めていたとき、彼女は、あまりうちに来なくなった。

ほっとした反面、何かを気づかれたのかと、思った

言いたいことを、全部告げるのは、フェアじゃないような気がしていた。

たった、それだけのこと。

二人でいる時間が長かったからこそ、一人でいたい時間を欲した。

それは、間違っていたのか。

贅沢すぎた望みだったのか。

いつでも側にいたものが、なくなった喪失感。

そこにいるのが当たり前だった存在が、いない景色に、愕然とする。

それこそが、身勝手な思い

「あなたのことが、全然分らないわ。私は、ずっと一緒に、そばに

いたかっただけなのに」

彼女からの、それだけのメールが、最後だった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6576d/>

---

彼の気持ち

2011年1月14日03時29分発行